

東京都立日野高等学校長
米 山 琢 児

今年度の取組目標及び成果と課題

1 「学習指導」

- (1) 「考えさせる授業」をすべての教科で実践し、生徒の思考力を高め、判断力、表現力を養う。
- (2) 文部科学省DXハイスクール推進事業及び新教育課程の整備、観点別評価の研究・統一化
- (3) 大学入試改革対応策としての土曜日活用と各種検定等積極的な指導推進
- (4) 新学習指導要領及び探究的な学びの整備に向けた校内研修の実施
- (5) 地域自然環境教育の効果的な実践

(成果)

学校全体で「考えさせる授業」を意識的に行うことで、生徒の授業満足度が上がっていることや実力テストの結果についても一定の効果があったと考える。生徒がデジタル環境を効果的に活用した学びや、学習履歴等のデータ分析・利活用の基礎づくりが図られた。観点別評価についても、教科主任会で研究・統一化が進み、進路指導の基盤が構築されてきている。

進路指導部や英語科から英語検定の進路への有用性を生徒に周知し、受験を推進し、進路活動に活用させていく。探究活動についてもDX探究部を中心に他校との連携を発展させ、充実を図っていく。

(課題)

学校全体で「考えさせる授業」を充実させ、確かな学力の定着・学力向上、さらに大学進学につなげていくこと。また、土曜活用日の保護者への周知、教員による更なる活用と充実。教員相互の授業参観の充実、若手教員の授業力向上を図り、より上位の大学進学を叶えられる教科指導体制の基盤の構築が課題である。観点別評価についても引き続きより統一化を図り、精度を上げ、進路指導の基盤を確かなものに作り上げていく。

2 「進路指導」

- (1) 補習・補講の実施
- (2) 組織的、系統的な進路指導
- (3) 探究活動と情報科の授業を活かした大学入試改革への対応
- (4) 高い目標への挑戦意欲の育成
- (5) 保護者との情報の共有
- (6) 体験的学習と進路講話

(成果)

平日や土曜活用日、長期休業期間中の進路対策や学習が遅れがちな生徒を対象にした補習・補講、夏季休業中の夏期講習を組織的・計画的に実施した。

本校の進路データを三者面談に活用することで、生徒も保護者もより具体的な進路先を見出すことにつながった。

(課題)

近年進路指導は情報戦の様相を呈している。TeamsやClassi、進路だよりを用いて生徒のみならず、保護者への十分な情報提供を発信し、三者面談や個人面談、進路に関する説明会、講演会を充実させ、すべての希望進路実現に向けた進路指導を推進する。

今後も指導と評価の一体化を進め、学習履歴等のデータ分析・利活用の推進、進路データを積み重ね、本校の進路指導の基盤を確かなものにしていく。

大学受験についてミスマッチがある生徒が見受けられる。自信をもって挑戦していけるよ

う組織的に対応する。

3 「生活指導」

(1) 交通安全教育の徹底、ルールやマナー及び情報モラルを遵守する指導

(2) 身だしなみの指導 (3) 遅刻防止及び盗難防止指導 (4) いじめや自殺防止の対応
(成果)

本校の生徒指導方針に基づき、指導内容の共通理解を図り、授業や集会等あらゆる場面で安全を意識した行動を徹底させ、授業や集会における規律、ルールやマナーを遵守する指導を組織的に行った。また、命にかかわる交通安全に関心を持たせ、自転車ヘルメットの着用をあらゆる機会積極的に使用するような指導の工夫を行った。家庭とも連携して携帯電話や一人1台端末を適切に使用するための情報モラルの育成をより図った。

教員、保護者、生徒向けの研修や生徒総合支援機能を充実させ、体罰、性暴力、不適切指導の禁止、いじめの未然防止・早期対応や自殺防止に関する情報の共有を組織的に図ると共に、アンケートやSC相談等を活用し早期発見に努めた。

(課題)

本校の生徒指導方針に基づき、指導内容の共通理解を図り、社会規範やマナーを育てるために、遅刻指導や身だしなみ指導、自転車乗車時のヘルメット着用等の安全指導の徹底を図ることを継続して行う。

4 「特別活動・部活動」

(1) 特別活動の充実 (2) 部活動の充実 (3) 近隣関係学校との交流

(成果)

生徒会を中心に据える場面を増やすことで自治意識の向上を図った。硬式野球部、陸上競技部、美術部、女子ダンス部が顕著な成績を上げた。学校説明会での吹奏楽部の演奏や女子ダンス部の公演、部活動体験など生徒が活躍する場面を多くすることで生徒の帰属意識が増し、達成感につながり、本校の生徒や部活動の魅力を知っていただく機会にもなった。特別支援学校との交流は生徒にも心の成長につながった。

(課題)

授業で培った思考力・表現力を主体的な活動につなげさせ、学校生活全般をさらに躍動感あるものにしていく。保護者や地域の力を支えに、体育祭、文化祭、合唱祭の学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動をさらに充実させる。また、部活動ガイドラインに則した活動指針を明示し、生徒と顧問が効率よく効果的な部活動運営を進め、生徒・保護者に理解を求める等の十分な相互理解に基づいた部活動を推進する。近隣関係学校との交流はさらに拡充を図っていく。

5 「体力向上と健康づくり」

(1) 体カテストを活用した体力向上 (2) 健康・安全に留意した実践的な態度の育成
(3) 校内美化・清掃の徹底

(成果)

地域合同防災訓練や避難訓練の効果的な実践指導計画や心身の健康に関わる健康講話、交通安全教室の実施により、生涯に渡って主体的に健康・安全に留意した生活習慣を身に付けさせた。保健部を中心に生徒総合支援委員会を開催し、全教職員で生徒を見守る体制ができた。校内美化は保健部を中心に、美化委員会が自治的に行っていく体制が構築されてきた。また、自転車の通学時のヘルメット着用等命にかかわる安全を最優先に考えることができるよう指導及び取り組み体制を継続した。

(課題)

次年度は、総務部・保健相談部として生徒総合的に支援する体制を組織的に推進し、全教職員で生徒を見守る体制を継続する。

体育的行事を利用するとともに授業内での補助的なトレーニングや部活動で体力を高める取組を推進する。また保健・健康講話や安全講習会の実施により生徒の健康に対する意識を高めることを継続して行う。行事前の美化活動を生徒中心に行えるよう推進する。

6 「広報・募集活動」

- (1) 新設学校ホームページと日野高ニュース、X（旧公式T w i t t e r）とSNSの活用
- (2) 本校への志願者を増やす取組

生徒主体の学校説明会の実施や出張説明会、模擬授業や部活動体験、中学校への出前授業、学習塾訪問や塾説明会を計画的、効果的に実施すると共に、業者作成の学校動画や新校舎写真データ等を有効活用し、広く学校の強みの周知を図ると共に、文化祭や学校説明会への来校者を増やす取組の充実を図る。

- (1) 新設学校ホームページと日野高ニュース、X（旧公式T w i t t e r）とSNSの活用
- (2) 本校への志願者を増やす取組

(成果)

新しい学校ホームページの閲覧回数が増加傾向になった。内容を充実させ、ホームページ内の日野高ニュースやほぼ毎日更新しているX（旧公式T w i t t e r）、SNSの活用により、学習や行事の様子、部活動の成果やお知らせを積極的に情報発信し、学校の魅力や強みをアピールした。本校のマスコットを新しくしたことで、中学生の興味関心にもつながった。

(課題)

本校の日々の活動や魅力をホームページで継続性をもって発信していく。生徒主体の学校説明会や学校見学会、部活動体験をさらに充実させて日野高新時代をアピールしていく。出張説明会や出前授業、学習塾訪問や塾説明会に範囲を広げて積極的に参加し、本校の魅力をアピールしていく。

7 「地域連携」

- (1) 地域と連携した探究活動やボランティア、近隣清掃
- (2) 地域行事や関係学校行事への参加

(成果)

部活動や生徒会による地域貢献は加速し、地域からの印象も良くなってきている。特別支援学校との連携はより確かなものとなり生徒の人権意識の向上につながった。DXハイスクール事業を通じて、日野市教育委員会との連携が深まった。日野市と2学年との連携で探究活動が実現・充実し、生徒の地域に対する文化意識の向上につながった。

(課題)

天文台の活用が十分できなかった。次年度は地域の方との連携を図り活用を推進する。日野市教育委員会との連携を充実させ、DXハイスクール事業を通じて義務教育との連携にもつなげていく。日野市との連携を図り、地域により愛される学校づくりを推進する。

8 「学校経営・組織体制」

- (1) 服務事故の防止 (2) 業務縮減及び働き方改革の推進に向けた取組
- (3) 特別支援教育の充実 (4) 経営企画室、その他

教育職員と連携した教育活動をとおして経営企画室の経営参画力向上を図る。予算編成、執行等ではセンター執行率を増加させ、特別予算を適切に運用する等コスト管理を進める。

グラウンド改修期間を通して生徒、教職員の安心・安全な学校生活の確保へ、施設・設備の警備・点検・整備を日々徹底する。新校舎の空き教室活用、清掃・整備にあたっては、円滑に進むよう総務部・保健部と連携し、複数年掛けて、組織的な調整を図る。

- (1) 服務事故の防止 (2) 業務縮減及び働き方改革に向けた取組
- (3) 特別支援教育の推進 (4) 経営企画室、その他

(成果)

いじめの未然防止、早期発見、早期対応に対する認識や生徒支援の考え方を悉皆研修で実施した。会議のオンライン・ペーパーレス化を進め、業務縮減・効率化を推進した。

自己申告面接等を通して、サービス・勤務状況を確認するとともに、15日以上の有給休暇や男性職員の育休等の取得を進め、働き方改革を推進した。研修・サービス届出の徹底や周知、定期券などの確認を行い、サービス事故ゼロを推進した。

(課題)

いじめの未然防止・早期発見・早期対応は校内で共有し、いじめの無い学校づくりを推進する。教員のワーク・ライフバランスの実現のために、効率的な業務の推進に努める。サービスの徹底を更に図り、事故ゼロを目指す。企画室と教育職員が十分に連携・協力を図り、教育効果を上げ、学校経営計画の実現を目指す。